

## 「動物画家 藪内正幸の世界」



藪内正幸氏の本は、当館のおすすめ本のリストにもたくさん入っており、その絵をみて育った方も多いのではないのでしょうか。

まるで今にも動き出しそうな動物たちの絵は、写実的で本物のようにみえます。

藪内正幸氏は、子どもの頃から絵を描くのが好き、そして近くの動物園に行ってはそこにいる動物たちを何時間も観察するほど動物も好きだったそうです。少年時代には、動物学者の高島氏、今泉氏との手紙での交流もあり、その縁で福音館書店に勤務することになりました。入社当初、哺乳類図鑑に絵をかくために、博物館へ通い骨格を描く日々を送ります。ところが、この図鑑製作の企画は途中で中止になります。そこで、児童書や幼児絵本、かがく絵本などを手掛けることになったそうです。実際に手掛けた絵本を見せながら、竜太氏がおはなししてくださいました。

「動物画家 藪内正幸の世界」と題し、ご子息であり藪内正幸美術館 館長の藪内竜太氏にご講演いただきました。テンポよく、よどみなく、正幸氏の人となりや作品についてお話しされ、あっという間の2時間でした。



このような精密な素晴らしい絵を描けるようになったのは、好きなことをやり続けたからだとおっしゃいます。お父様の生き方を通して、「好き」を追求することや、本物を見る、出会うことの大切さをお話しくださいました。

参加者からは「あのような素晴らしい絵を描くにいたった生涯をうかがい、感動した」、「山梨にある美術館に行ってみたい」などご感想をいただきました。

さらに、今回の講演会にあわせて、藪内正幸さんの原画を美術館よりお運びいただき、中央図書館4階の多目的ルームにて5日間の原画展を開催しました。

約30点の原画と、図書館所蔵の資料もあわせて展示しました。講演でもおはなしされていた、本物を見もらえる良い機会だったと思います。

